

【 復活トロパリ 第6調 】

てんしのぐんなんぢのはかにあらわれしに、
 天使 軍 爾 墓 現

ばんぺいしせしもののごとし、マリアはか
 番兵 死 者 如 墓

にたちて、なんぢのいさぎよきからだをたづね
 立 爾 潔 體 尋

たあり。なんぢはぢごくにいざなわれず
 爾 地獄 誘

して、ぢごくをとりこにし、いのちをた賜
 地獄 虜 生 命 賜

もうものとして、しよぢよにあいたまえり。
 者 處女 逢 給

しよりふくかつせししゅよ、こうえいは
 死 復 活 主 光 榮

なんぢにきいす。
 爾 歸

【 日本の亜使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

しととひとしくどうざなるもの、ちゅう
 使徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハリストスのえきしゃ、せい
 實 神智 役 者 聖

なるしんにえらばれたるふえ、ハリストスのあい
 神 撰 笛 愛
 にみちたるうつわ、わがくにのこう
 満 器 我 國 光
 しょおしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ
 照 者 亜使徒主教聖
 よ、なんぢのぼくぐんのため、および
 爾 羊 群 爲 及
 ぜんせかいのため、いのちをたもうせい
 全世界 爲 生 命 賜 聖
 さんしゃにいのりたまえ。
 三者 祈 給 え。

【 日本の亜使徒ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとこおとせいしんにき
 光 榮 父 子 お と 聖 神 歸
 す、
 せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが
 成 聖 者 亜使徒聖 我
 くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ
 國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受
 しに、なんぢははじめわがくににおいておの
 爾 初 我 國 於 己

れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストスの
 外 來 者 知
 ひかりとあたたかきをながし、なんちのて
 光 暖 流 爾 敵
 きをぞくしんのことなあし、かれらにか
 屬 神 子 爲 彼 等 神
 みのおんちようをあたえ、ハリストスのきょうかいをたて
 恩 寵 與 教 會 建
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり
 今 此 教 會 爲 祈
 たまあえ、けだしわれらそのしよしはなん
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾
 ちによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ
 呼 我 善 牧 者 慶
 べよ。

【 復活のコンダク 第6調 】

いまもいつもよよにい、アミン。
 今 何 時 世 世
 いのちのげんいたるハリストスかみはいのちを
 生 命 原 因 神 生 命
 ほどこすてをもつてしせしものをくらきた
 施 手 以 死 者 暗 谷

によりいだし、ふくかつをじんるいに
出 復 活 人 類

たまえり、しゅうじんのきゅうせ いしゅ、ふ
賜 衆 人 救 世 主 復

くかつといのち、およびしゅうじんのかみな
活 生 命 及 衆 人 神

ればなあり。

司祭) (黙誦： ^{せい かみ せいじゃ うち いこ} 聖なる神、^{せいさん こえ もつ かしょう} 聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、
^{さんえい ことごと てんぐん ふくはい ばんぶつ む ゆう} ヘルヴィムより讚榮せられ、^{ひと なんぢ ぞう しょう よ つく なんぢ もろもろ たまもの もつ これ かざ} 悉くの天軍より伏拝せられ、萬物を無より有となし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、
^{ねが もの ちえ めいご あた つみ おこな もの す そのすくい ため つうかい} 願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行ふ者を棄てずして、其救の爲に痛悔
^{た われらいや ふとう なんぢ しょぼく こ とき おい なんぢ せい} を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な
^{さいだん こうえい まえ た なんぢ とうぜん ふくはいさんえい たてまつ た もの} る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拝讚榮を奉るに堪うる者と
^{しゅさい なんぢみづか われらざいにん くち せいさん うた う なんぢ じんじ} なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を
^{もつ われら のぞ われら およ じゆう じゆう つみ ゆる わ たましい からだ} 以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と
^{せい われら しょうがいぜんこう もつ なんぢ つと え たま せい} を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる
^{しょうしんぢよ こせい なんぢ よろこび な しょせいじん きとう よ} 生神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、)

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

ア ミ ン。

【 聖三祝文 】

せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い な る
 聖 なる 神 、 聖 なる 勇 毅 、 聖 なる

じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ め
 常 生 の 者 我 等 を 憐 め

よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、 せ い
 聖 なる 神 、 聖 なる 勇 毅 、 聖

な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ れ
 常 生 の 者 我 等 を 憐

め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う き 、
 聖 なる 神 、 聖 なる 勇 毅

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 なる 常 生 の 者 我 等 を 憐

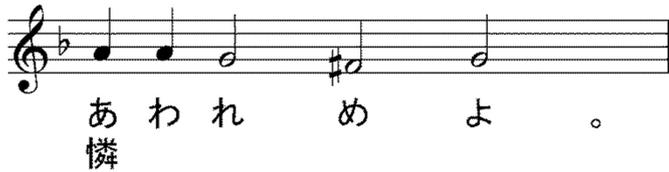
れ め よ 。 こ う え い は ち ち と こ と せ い し ん
 れ め よ 。 光 榮 父 子 聖 神

に き す 、 い ま も い つ も よ よ に 、 ア ミ ン。
 歸 今 も 何 時 も 世 世 に 、 ア ミ ン。

せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を あ わ
 聖 なる 常 生 の 者 我 等 を 憐

れ め よ 。 せ い な る か み 、 せ い な る ゆ う
 れ め よ 。 聖 なる 神 、 聖 なる 勇

き 毅 、 せ い な る じ ょ う せ い の も の よ 、 わ れ ら を
 毅 、 聖 なる 常 生 の 者 我 等 を



あわれめよ。
憐

司祭) (黙誦: ^{しゅ な よ き もの あが ほ}主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、^{ぎ もの なんぢ そのくに}ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國
^{こうえい ほうざ あ つね あが ほ いま いつ よよ}の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、)

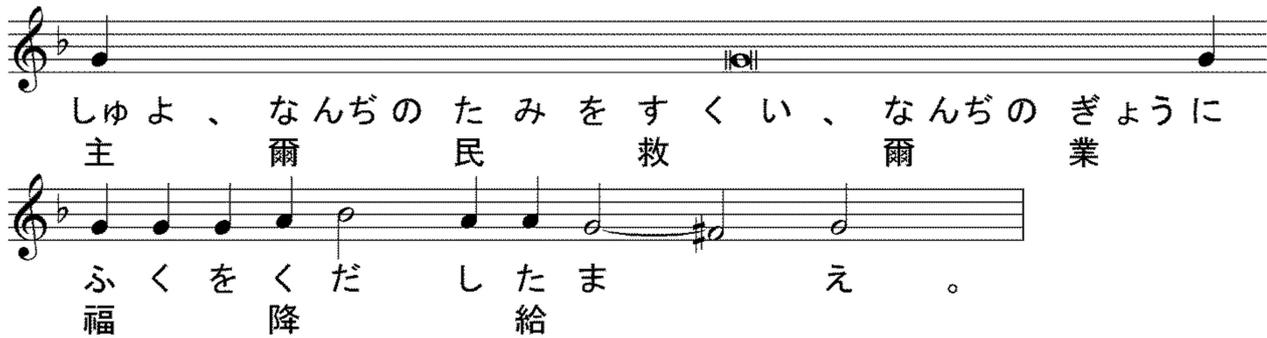
【 ^{プロキメン} 提綱 主日第6調 】

司祭) ^{つつし き しゅうじん へいあん}慎みて聴くべし、衆人に平安、

誦經) ^{なんぢ しん}爾の神にも、

司祭) ^{えいち}睿智、

誦經) ^{しゅ なんぢ たみ すく なんぢ ぎょう ふく くだ たま}プロキメン、主よ、爾の民を救い、爾の業に福を降し給え、



しゅよ、なんぢのたみをすくい、なんぢのぎょうに
主 爾 民 救 爾 業
ふくをくだしたま え。
福 降 給

誦經) ^{しゅ われなんぢ よ われ かため わ ため もだ なか}主よ、我爾に呼ぶ、我の防固よ、我が爲に黙す母れ、



しゅよ、なんぢのたみをすくい、なんぢのぎょうに
主 爾 民 救 爾 業
ふくをくだしたま え。
福 降 給

誦經) ^{しゅ なんぢ たみ すく}主よ、爾の民を救い、



なんぢのぎょうにふくをくだしたま え。
爾 業 福 降 給

【 ^{アポストロス} 使徒經 220 端 エフェス書2章4節~10節 】

司祭) ^{えいち}睿智、

誦經) 聖使徒パヴェルがエフェス人に達する書の讀、

司祭) 謹みて聽くべし、

誦經) 兄弟よ、矜恤に富める神は、其我等を愛する大なる愛に縁りて、我等罪に由りて死

せし者をハリストスと偕に生かせり、爾等恩寵を以て救われたり、彼と偕に復活せ

しめ、ハリストス・イイススに在りて天に坐せしめたり、未來の世に於て、其ハリストス・イ

イススに在りて我等に施しし仁慈を以て、恩寵の溢れたる富を示さん爲なり。蓋

爾等は恩寵を以て信に由りて救われたり、是れ爾等に由るに非ず、神の賜なり、

行に由るに非ず、人の誇ることなからん爲なり。蓋我等は彼の造りし者にして、ハ

リストス・イイススに在りて善き功の爲に造られたり、即神が我等の行わん爲に、

預め備えし所なり。

(比較用 口語訳) 兄弟たちよ。あわれみに富む神は、わたしたちを愛して下さったその大きな愛をも
って、罪過によって死んでいたわたしたちを、キリストと共に生かし——あなたがたの救われたのは、
恵みによるのである——キリスト・イエスにあって、共によみがえらせ、共に天上で座につかせて下さ
ったのである。それは、キリスト・イエスにあってわたしたちに賜わった慈愛による神の恵みの絶大な
富を、きたるべき世々に示すためであった。あなたがたの救われたのは、実に、恵みにより、信仰によ
るのである。それは、あなたがた自身から出たものではなく、神の賜物である。決して行いによるの
ではない。それは、だれも誇ることがないためなのである。わたしたちは神の作品であって、良い行いを
するように、キリスト・イエスにあって造られたのである。神は、わたしたちが、良い行いをして日を
過ごすようにと、あらかじめ備えて下さったのである。

【 アリルイヤ 主日第6調 】

司祭) 爾に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

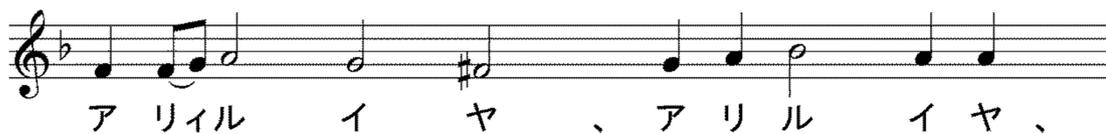
誦經) アリルイヤ、



誦經) ^{しじょうしゃ おおい した おもの ぜんのおしや かげ した やす} 至上者の覆の下に居る者は、全能者の蔭の下に安んず、



誦經) ^{しゅ い なんぢ われ かくれが われ ふせぎ われ たの ところ われ かみ} 主に謂う、爾は我の避所、我の防禦、我が頼む所の我の神なりと、



司祭) (黙誦: ^{ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん} 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念

^{め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ} の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を

^{おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よろこ ところ} 畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

^{おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ} を思い且つ行いて、属神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

^{なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん} 爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし

^{いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ} て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世に、アミン。)

【 ^{エヴァンゲリオン} 福音經 ルカ福音書39端 8章41～56節 】

司祭) ^{えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん} 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、



なんぢのしんにも。
爾 神

司祭) ルカ傳の聖福音經の讀、



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
主 光 榮 爾 歸 光 榮



はなんぢにきす。
爾 歸

司祭) 謹みて聴くべし、彼の時イائلと名づくる人にして、會堂の宰たる者、來りてイ

スの足下に俯伏し、其家に入らんことを求めたり、蓋彼に獨の女、年約十二

の者ありて、今死せんとせり。彼が行く時、民之に擁し逼れり。十二年血漏を患うる

婦、醫師の爲に其悉くの所有を費したれども、一人にも痊さるを得ざりし者は、

後より就きて、彼の衣の裾に捫りしに、其血漏直に止れり。イイスス曰えり、誰か

我に捫りたる。衆の認めざる時、ペトル及び彼と偕に在りし者曰えり、夫子、民爾

を繞りて擁し逼るに、爾は誰か我に捫りたると謂うか。然れどもイイスス曰えり、我に捫

りし者あり、蓋我能の我より出でしを覺えたり。婦は自ら隠す能わざるを見て、

戦きて來り、彼の前に俯伏して、彼に捫りし故、又如何にして立に愈されしを、

彼に衆民の前に告げたり。彼は之に謂えり、女よ、心を安んぜよ、爾の信は爾

を救えり、安然として往け。彼が尚言う時、會堂の宰の家より人來りて曰く、爾

の女已に死せり、師を煩わす勿れ。イイスス之を聞きて、宰に答えて曰えり、懼るる勿

れ、惟信ぜよ、彼は救われん。家に來りて、ペトル、イオアン、イアコフ、及び少女の父

母の外、誰にも入ることを許さざりき。衆人爲に哭き哀めるに、彼曰えり、哭く勿れ、

彼は死せしに非ず、乃寝ぬるなり。人人其死せしを知りて、彼を晒えり。彼衆を

外に出して、其手を執りて、呼びて曰えり、少女、起きよ。其神返りて、直に起きた

かれ これ しょく あた めい そのふ ぼおどろ かれら いまし おこな
 り、彼は之に 食を與えんことを命ぜり。其父母 駭きたり、イイスス彼等に 戒めて、行
 われし事を人に告ぐる勿らしめたり。

(比較用 口語訳) その時、そこに、ヤイロという名の人 came。この人は会堂司であった。イエスの足もとにひれ伏して、自分の家においでくださるようと、しきりに願った。彼に十二歳ばかりになるひとり娘があったが、死にかけていた。ところが、イエスが出て行かれる途中、群衆が押し迫ってきた。ここに、十二年間も長血をわずらっていて、医者のために自分の身代をみな使い果してしまっていたが、だれにもなおしてもらえなかった女がいた。この女がうしろから近寄ってみ衣のふさにさわったところ、その長血がたちまち止まってしまった。イエスは言われた、「わたしにさわったのは、だれか」。人々はみな自分ではないと言ったので、ペテロが「先生、群衆があなたを取り囲んで、ひしめき合っているのです」と答えた。しかしイエスは言われた、「だれかがわたしにさわった。力がわたしから出て行ったのを感じたのだ」。女は隠しきれないのを知って、震えながら進み出て、みまえにひれ伏し、イエスにさわった訳と、さわるとたちまちなおったこととを、みんなの前で話した。そこでイエスが女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい」。イエスがまだ話しておられるうちに、会堂司の家から人がきて、「お嬢さんはなくなられました。この上、先生を煩わすには及びません」と言った。しかしイエスはこれを聞いて会堂司にむかって言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい。娘は助かるのだ」。それから家にはいられるとき、ペテロ、ヨハネ、ヤコブおよびその子の父母のほかは、だれも一緒にはいって来ることをお許しにならなかった。人々はみな、娘のために泣き悲しんでいた。イエスは言われた、「泣くな、娘は死んだのではない。眠っているだけである」。人々は娘が死んだことを知っていたので、イエスをあざ笑った。イエスは娘の手を取って、呼びかけて言われた、「娘よ、起きなさい」。するとその霊がもどってきて、娘は即座に立ち上がった。イエスは何か食べ物を与えるように、さしずをされた。両親は驚いてしまった。イエスはこの出来事をだれにも話さないようにと、彼らに命じられた。

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい
 主 光 榮 爾 歸 し、 光 榮

はなんぢにきす。
 爾 歸 す。

※聖体礼儀③ (金口イオアン聖体礼儀) へ